

平成23年度静岡県審判員・記録員伝達研修会を開催！

2月26日、27日の2日間に渡り、標記伝達研修会が浜名湖ロイヤルホテルなどで開催された。県下各支部からの審判員・記録員あわせて約140名が出席した今年の研修会開講式で、塩澤会長は、「今は、七十二候の霞始靄（かすみはじめてたなびく）。『霞』という文字通り気の緩みがちな時期だが、この霞を打ち払って精励してほしい。」と受講生を鼓舞した。高木理事長は、「静岡県はどこへ行っても考え方が統一されているなあと言われるよう、正確に伝達して欲しい。」と激励。引き続き、ルール委員会の土田委員長より平成23年度のルール改正・修正点について講義があり、このあと審判員、記録員に分かれての研修が始まった。

審判員の研修では、競技者必携の改正点、審判実務についての説明やビデオでの不正投球のチェック、審判員の動きの確認などを行った。翌日の実技では、ストライクのコールとゼスチャーを同時に行う練習に重点を置いた。この日は好天に恵まれ、中には半袖で取り組む受講生もあったほど。また、今年からはオーダー用紙に記入のないメンバーは試合に参加できず、ベンチ入りも出来ない点など、チームに直接かかわる変更点も多いため、登録する各チームへの指導も重要となりそうだ。

一方、記録員の研修では、開始早々に試合のビデオを見ながらスコアをつけるという『抜き打ち』？とも思えるようなハードなスタート。昨年のような大きな改正は無かったものの、翌日も短時間でのスコアカードの点検、戦評の作成、打球判定、そして記録委員会・統一事項の確認など、非常にタイトなスケジュールが組まれ、受講生たちは必死の形相で取り組んでいた。

本研修会の受講生たちは、これから各支部において末端までの正確な伝達に臨むこととなる。

